

「地域建設業将来展望」に対するご意見・ご感想

2019/08/16

○当たり前のように生活できているのも建設業者が私たちの生活している場所のインフラを整えてくれているからだと改めて感じた。

そして現状建設業就業者の高齢化の危機的な進行状況になり、働き方改革を進め、働き手の確保はこれからとても重要な事だと思います。さらにAIも地域建業に影響しているのはとても驚きだった。

○第四次産業革命により、様々な職種がなくなっていくとの予想がたてられているが、地域建設業も間違いなく影響をうけるであろう。それに対し、これらをうまく使い、スマートタウン、スマートハウスといったユニバーサルデザインのまちづくり、これから増加するであろう自動運転車の制御、監視、ダイナミックマップ、除雪車の自動運転の開始などといった、将来便利に、かつスマートに運用していく将来展望に、とても頼もしく感じた。

○若手従業員の確保に関しては、2017年には4.0万人まで新規学卒者の入職者数は回復したとあったが、今後は建設工学などについて未経験な新規学卒者に対しての具体的なアプローチなどがないと、また衰退してしまうのではないかと考える。

○建設業界では絶対的な“信頼性”が最も必要であると考えている。この信頼性を中小企業の建設会社ではどの様に身につけてゆくのかが少し自身の中で疑問に感じた。

○地域建設業に関して自分が印象的に思っていると主言えば、レオパレスの建設不備などのニュースである。このようなニュースは最近の出来事であるが、過去にも耐震の構造の事件もあった。全体的に市場としては、国からの投資額に着目して見てみると、減少傾向にある。それに伴い、インフラ整備が行き届かず、自然災害など異常事態に陥った時に取り返しのつかない状況になっているのも事実である。本国の国債が増加傾向にある現状で、ここの投資額の増大を期待するのは、考えがあまりにも軽薄であると考え。この地域建設業の現状を変えるためには、自身で社会に対して需要を生み出し、供給を増やしていくしか打開策はないと考える。

○きついわりに給料が低い、休日がないなどの理由により、建設業から離れる人が多い。人がいなくなると残った人の負荷がさらに上がり、よりきつくなる。この悪循環を断ち切らなければいけないと思います。具体的な対策としては給料だと考えます。人は相対的に給料を多くもらっていれば、自分の仕事に誇りを感じます。企業は金銭的な器を大きくし、職人は給料をもらった分は責任をもって働くことをすべきだと思います。

○過去には、一般的な家庭のモデルとして男が経済的に家庭を支え、女性は家庭を家事や子育てで支えるというものだ、ったが、現在ではその古い慣習とは別に、世帯収入の面から見ても、男性一人の収入だけでは子供を大学まで行かせることが難しいため、働きたいと考えている女性は多く存在する。しかし、現在の労働環境では産後復帰が受け入れられなかったり、子育てと仕事を両立するためのフォローが満足でなかったり、女性の管理職が少ないなど、女性の雇用問題に対する施策は社会的に十分とは言いがたい。その点において、この地域建設業将来展望では、「女性ならではの視点からの現場環境の改善、近隣対策等の実施、企業・地域の枠を超えた女性目線で、の現場パトロール等、女性活躍の取り組みが広がっており」と述べられており、女性の雇用問題に対するアプローチが行われていることが、特に評価できるポイントであると考えられる。

○まちづくりとは公務員の方々が行っていくと考えていたが、建設業も実際に人々の声を聞き、その町のニーズ、のそった建物を造っていくことで、地域活性化やまちづくりに貢献していることにとっても感動した。また、発注者や協業仲間、協力企業との間の信頼性があることで何年にも続いていく建物が造られていることに改めて感動した。これからも日本国民がより豊かな生活をしていけるような、感動していくような建物が増えていくことに強い期待と関心を持つことができた。

○地域と密接にかかわる建設業界だからこそ、女性の視点が重要になるということを知った。しかし、入社後の女性の昇進・上級管理職までのキャリアアップはいまだに難しいのではないかと感じた。建設業界として女性の労働環境をどのような取り組みを通して改善していくのか知りたいと感じた。

○インフラ整備などで、多くの日本の人々の命を救ってきている業界の人々が、労働災害によって命を落としていくという事実は、とてもつらいものがある。働き方改革もそうだが労働災害に関する対策や措置をもっととっていけたら、若い人材の確保にもつながっていくのだろうと考える。

○建設業と聞くとどこか国内向けな気がしていた。強いていうなら、一部の大企業が海外のインフラに関わっている程度だと思っていた。しかし、海外にはもはや国内よりもチャンスがあるように思うし、それによって発展途上国の発展に寄与できるとするならば Win-Winなのではないだろうか。お金の問題など、簡単にしかないことがたくさんあるのはわかるが、私はこれからの建築業界の海外展開に期待したい。

○東日本大震災をはじめとする大規模災害等の発生時に実施してきた応急対応、道路啓開、瓦礫処理や、除染作業、廃炉作業、防疫作業等は、地域の安全確保という使命感とともに “地域建設業がやらねば誰がやる、今やらねばいつできる”の精神が源となっている活動である。とあり、この言葉がとても印象に残った。

○土日の休暇について、集中的に工事を行ってもらいたい民開業者の発注によって土日も働かざるをえないということが書かれてあった。文書では、その点も踏まえて土日休業をしていくようにしているが本当に可能なのかと疑問に思った。個人的にこの問題が気になったので、現在その点について解決の見通しが立っているならば、このように解決するというところの記述がほしかったなと思った。

○建設業界が、地域の危機管理産業として機能しているということは、非常に意外だった。東日本大震災での社屋の倒壊や津波での被害、また、一見建設業には関係のないような鳥インフルエンザの対応にも建設業が乗り出していることは驚きであった。

○建設業がここまで民衆に根差して、心を配ってくれていることを知っている人は、ごく少数なのではないかと思った。素晴らしいことをしているのだから、もっとアピールをしてもいいと思う。

○やりがいを感じる職場を提供する役割と責任を果たすための役割として、

- ・希望の持てるキャリアパスの提示
- ・人生設計が可能な処遇の提供
- ・仕事と家庭、地域社会生活とが両立可能な働き方の実現
- ・安全・安心な現場の構築

この4つが挙げられていた。個人的にはこれが普通ではないのか?当たり前のことをわざわざ挙げているあたり少し疑問に感じた。こういう働き方の根本に現代日本社会における“遅れ”を感じた。

○投資額の減少によって地域に必要なインフラ整備が滞ってしまっている現状があり、災害発生時に多大な損失が発生する危険がある。昨年の豪雨災害も川の工事を計画している途中に発生しており、すでに被害が発生してしまっているのである。十分な人手と投資額が存在していれば被害を最小限に抑えられていたと考えられる。すでに人手不足と資金不足の被害が発生しているように感じた。

○「働く人達に報い、大事にすることのできる企業であること」という一文に好感を持った。労働者に「報いる」という方針はあまり見たことがなく新鮮だった。建設業は現場を始め災害地など、危険な場所に赴くことも少なくない。だからこそ他職種よりも一層、労働者の安全確保や健康管理には注意を払い、大事にしていかなければならないのだろうと思った。

○将来展望論には、「地域建設業は、時に厳しい現場環境の中で、額に汗して仲間とともに働き、苦労の中で完成の喜びを分かち合える建設の仕事に、誇りを持って当たっている。」とある。このような仕事の魅力などを前面に出してアピールすることも人材確保につながる重要な作業の一つではないか。

○第四次産業革命下の新しい時代・生活様式に対応する社会資本の誕生と整備の必要性によって事業拡大が見込まれる。未来に向けての新たな取り組みは文面で読んでいても少しわくわくするような内容だと思った。先端技術を取り組むことで、より過ごしやすい建築物ができるのではないか。各地域のニーズに応え、行政・住民とも協力して仕事ができる環境はとて望ましい。地域を生かせる地域建設企業力であってほしい。

○地域建設業が、地方創生等でも積極的に役割を果たすことが期待されている産業であり、地域の安全・安心を確保する役割を果たしていることを知り、もっと詳しくしている活動を知りたいと思った。地域に密接した仕事であり、私たちが災害にあったときに助けになる活動をしていることを今まで知らなかった。

○業務災害は多く事故も多いのが現状であると知り、この点をしっかりと変えていかなければ若い世代を集めることは難しくなってくると考える。

○災害に関しては、行政よりも民間であるがゆえに先に動けることや、縛りなく動ける面があり、その地域についてのプロフェッショナルであるため、一番災害時に活躍できる事業なのではないかと私は考える。そのうえで、地域建設業であるが故の特性を生かして、その土地にあった災害に対する最善の形を建設前に練り、それに基づいた建設を心がけていくことも、災害に対しての対策になるのではないかと思う。

○私は小さい頃の夢が工事のおじさんでしたが、地域に根付いた仕事だからこそそう感じたのだと改めて感じました。

○3Kと言われている業界ではあるが、プロ意識を持っていることにカッコよさを感じた。しかし、外国人労働者に関してはより一層の対策が必要なのではないかと感じた。さらに、友人が短期の派遣バイトで10時間以上の労働や、事前通知のない重労働を課されていたことから、まだまだネガティブなイメージは払拭できていないことも明らかである。

○私は、去年の12月に東北、宮城県を訪れた。感じたことは道や建物が時の流れに追いついていないということだった。常に工事は行われていた。今この資料を読み感じることは、地域に安全と安心を届けたいという気持ち、今までよりももっとよい環境に、もっと居心地のよい地域にという思いをこめながら作業をしていたのではないかということである。

○若者にとって、建設業は、肉体労働であり、非常に大変であるという印象が強いのではないかと思う。一方、農業は自然と触れ合うことができ、うまくいけば一大ビジネスになるというイメージが広がってきている。建設業は、基本的には昔からのスタイルのイメージのまま変わらない。地下トンネル工事や世界での建設などの一大事業には魅力を感じやすいが、どうしても地域のインフラ整備等は地味なものに見えてしまう。だからこそ、IoT化を迅速に推し進めることで、「カッコいい」かつ「最先端」かつ「面白い仕事」であるというようなイメージを、建設業界だけでなく世間全体に広めることが、若者の獲得につながると思う。

○課題として考えるべきことは、働き方改革に関することだと私は考える。死亡災害が全産業の113を建設業が占めていると知り、いち早く働き方改革をするべきだと思った。安全を確保するとともに、労働者への疲労の配慮などにも目を向けて考えるべきだと思う。

○給料が良くて、休みが取れる、希望が持てると3点、良いポイントを資料であげていたが、日本全体として人手不足が深刻な中で賃金の増加、休暇のとりやすさは、人材獲得競争の中でどの企業でも行うであろう対策ではないかと感じた。もう少し建設業独自の良い点、例えば建設技術の資格が取れるなどをアピールしても良いのではと感じた。

○高度経済成長期に集中的に整備された様々な建築物が老朽化してきたこのタイミングで前述したように災害が増えてきている。ましてやのちに控えている南海トラフ地震で甚大な被害がでるのは避けることのできないことかもしれない。

○今よりいっそう老朽化したものを改修し、耐震化、長寿命化、再整備をしていくことで一つでも多くの命を救える可能性、つまり地域危機管理産業としての役割がこれからの建設業界には非常に重要であると思う。

○女性が活躍できる実証があるが、入社後の女性の昇進、キャリアアップの証拠がないため、女性の昇進や昇格は難しいのではないかと考えた。建設業界がどのように労働環境を改善し、どのような取り組みを行うのか長期的な目線で見たいと感じた。

○建設業界に対して、3K（きつい、汚い、危険）というイメージがあると書いているが、その通りだと思う。僕自身、派遣のアルバイトで工事現場に働きに行ったことがある。その時、事前に知らされていた仕事よりきついことをやらされたり、事前に知らされていた時間よりもとても長い時間働かせられたりしたことがあり、とても地域建設業に対してこのような3Kのイメージを強くもっている。

○新3K（給料が良く、休暇が取れ、希望が持てる）のイメージを多くの人に定着させるためには、とても大変だし、時間がかかるのではないかと思った。

○以前に駅前のビルを建設している最中にその工事現場の前を通った時、多くの男性従業員に交じって数名の女性作業員が働いているところを目にしたことがある。この、資料を読んで、建設業が現場でも女性の力を取り入れていることがわかり、私が前に見たその光景とリンクすることができた。

○多くの仕事をロボットがこなすことができるようになってきているが、建設業というのは、人がその建物の中で、暮らしたり、仕事をしたりするために作られるものであると思う。だからこそ、人の目で実際にしっかりと見て、作業が行われないといけない。そのために、外国人労働者を積極的に雇うなどこれまで以上の工夫が必要であると思う。

○地域建設業が厳しい状況にあるなかで、問題を解決していくには今まで以上に地域住民とかかわっていくべきだと感じた。

○新たに建設業に就職を考える人たちにとって3Kのイメージは長期的に働くという観点から見てネガティブな印象づけをしてしまう。労働環境の改善は急務であると考ええる。

○人手不足や後継者不足は、人口の減少によるところもあるのだろうが、単純に建設業に魅力を感じる若者が少ないのだと私は思う。私の友人などで建設業に就きたいという友人はほとんどいない。働く上で一番重要と考えるお金を稼ぐという目的において、建設業はあまりいいイメージがない。低賃金や肉体労働のイメージはまだまだ払拭されていない。建設業に従事する事の魅力をもっとアピールし、業界のイメージを払拭することが必要と考える。